のんびり暮らすのもいいもんだ 田舎のぜいたくをおすそわけ

鳥取の古民家で

最近、「定年後は田舎で暮らしたい」という人が増えています。ショッパーの読者アンケートでも以下の意見がありました。今回は、そんな人にお勧めな鳥取の体験施設を紹介。「老後はライフスタイルを変えてみたい」という人、必見で

まずは1泊2日で気軽に「ちょこっと」田舎暮らし体験を

第二の人生を見つけるきっかけに

豊かな自然、のんびりした空気、素朴だけどぜいたくな食事。晴れた日には田畑を耕し、雨なら家で静かに時を過ごす「晴耕雨読」のライフスタイル。あなたが描く田舎暮らしとはどんなものですか？

鳥取県西部の山あいに、週末1泊2日で農作業などが体験できる施設「かつみや」（日南町菅沢729、写真1、2、3、4、8、写真6は近郊の風景）があります。この地域に移住を検討する人のほか、漠然と「老後は田舎へ」と考える団塊世代が、移住の入り口として利用するケースも。実は、オーナーの宮本克範さん自身も、市街地に住む傍ら、生まれ故郷で同施設を始め、定年後の生き方を模索している団塊世代の一人（写真7）。訪れれば、宮本さんの生きたアドバイスが得られるかもしれません。

やっと見つけた！私の故郷

「まさにここは日本の原風景。初めて訪れたとき、故郷を見つけた気分になりました」。斉藤一博さん（写真5）は今秋、大手食品メーカーを定年退職し、茨城県から同町に移住する予定。50代半ばから「経験を生かして町づくりに参加したい」と考えるようになり、4年かけて全国に移住先を探した結果、日南町への移住を決めました。

四季を通じて足を運び、冬季の積雪など、なじみのない点も確かめた後、決意したそう。

「この地域の人たちは、高齢ながら元気いっぱい。これからは、故郷を盛り上げようとがんばる地域の輪に入りたい」と目を輝かせます。

「かつみや」は、東海地方から少し遠いですが、自身の第二の人生の姿を問うきっかけづくりに役立つはず。ぜひ一度、訪れてみませんか。

なお、鳥取県では、移住定住化政策に力を注ぎ、就職や同県での暮らしについて気軽に相談できる窓口を設けています。詳しくは左記サポートセンターへ問い合わせを。

かつみやの予約・問い合わせは、宮本さん（電話0859・87・0304（土・日）、0859・26・3761（平日））へ。宿泊体験（1泊2食）は、中学生以上6000円ほか。

同県への移住については同県移住定住サポートセンター（フリーダイヤル0120・8415238）へ。とっとり移住定住ポータルサイトも活用を。http://www.pref.tottori.lg.jp/iju/

またショッパーHPでは、今回の体験をもっと詳しく紹介しています。http://shopper.chunichi.co.jp

プレゼント

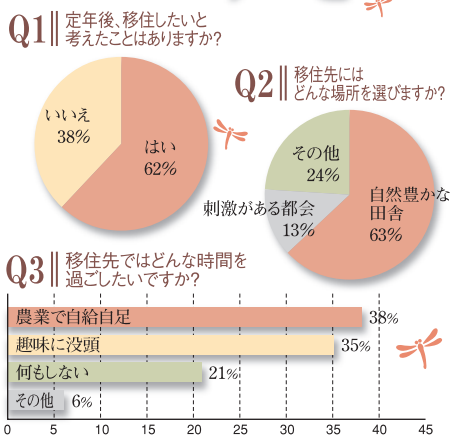
日南町特産のトマトを使ったジュース「素っぴんトマト」を3本セットで5人にプレゼントします。希望者は〒、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、この記事の感想を添えて、はがきかFAX（052・209・9372）で〒460・0001 名古屋市中区三の丸1・5・2 中日ショッパー「鳥取県ジュースプレゼント係」まで。9月10日（水）必着。

かつみやへのアクセスは

電車で／JR名古屋駅から新幹線で岡山駅へ、特急やくもに乗り換えて生山駅へ、約3時間。さらに車で約20分

車で／小牧IC→名神高速道路→中国道→米子道→江府IC 約5時間30分

飛行機で／セントレアから米子空港へ 約1時間。さらに車で約1時間



中日新聞社発行「ショッパー」掲載（2008年9月4日号）